

8 章

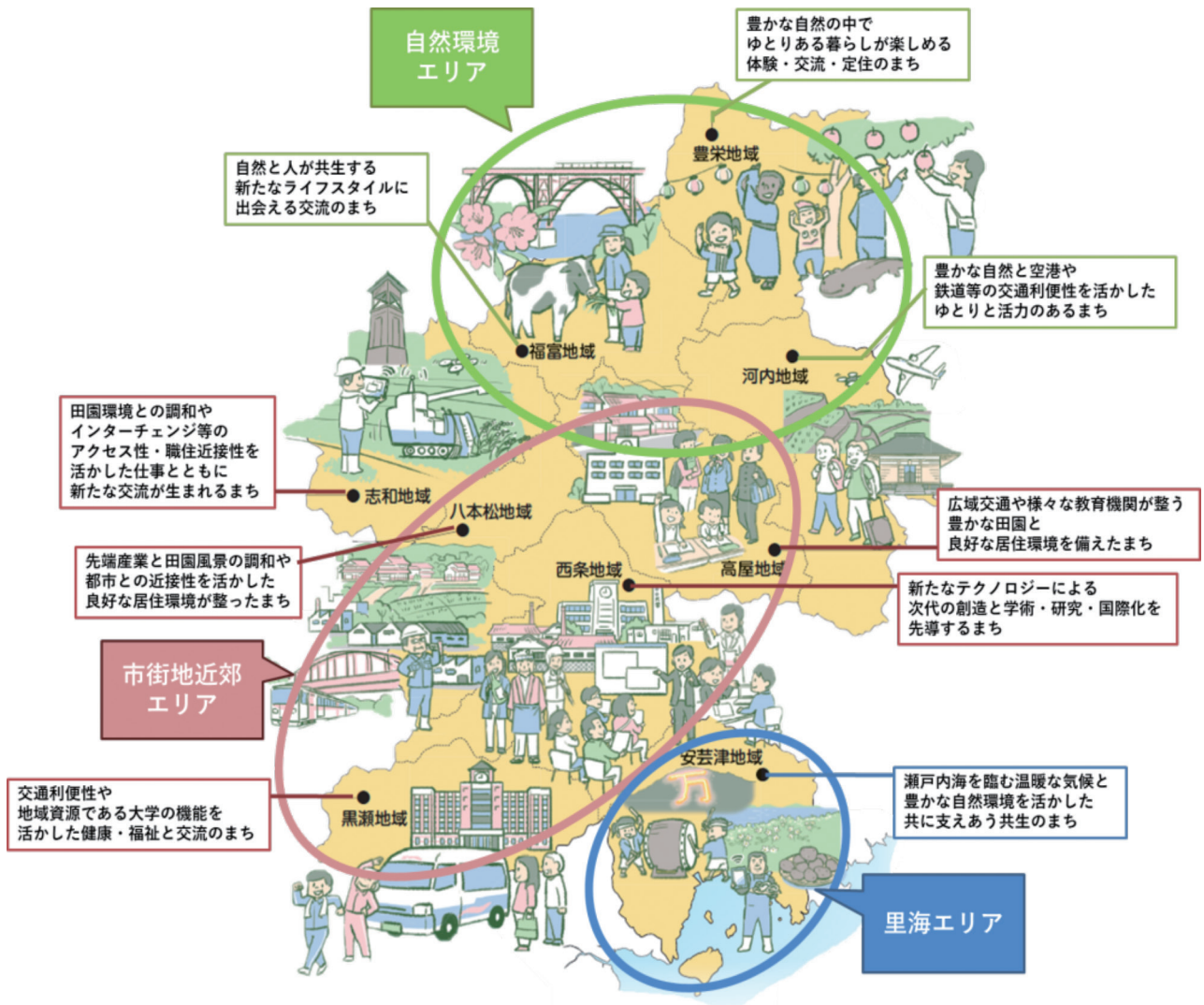
地域別森林・ 林業施策の振興



東広島市は、広島県の中央に位置し、周辺圏域との連携が容易な立地条件を背景に、様々なプロジェクトの推進により、学園都市化や第2、第3次産業の急速な成長、それらに伴う人口の急増など、急激な発展を遂げてきました。一方で、これまでの合併により、大きく拡大してきた本市を構成する各地域には、それぞれ多くの地域特性があることや、地形的な違いから、従来から各生活圏域で特色あるまちづくりが展開されてきました。森林をはじめとした自然環境やそれに対するアプローチについても同様です。

ここでは、市内を「森林」視点で3つのエリアに分けるとともに、9つの地域ごとの視点で森林と森づくりの現状、活用の視点での今後の方向性について記載します。

地域ごとの取組については、総合計画における地域別計画と整合を図りながら、今後とも市民、各種団体などとの協働によって推進する必要があります。

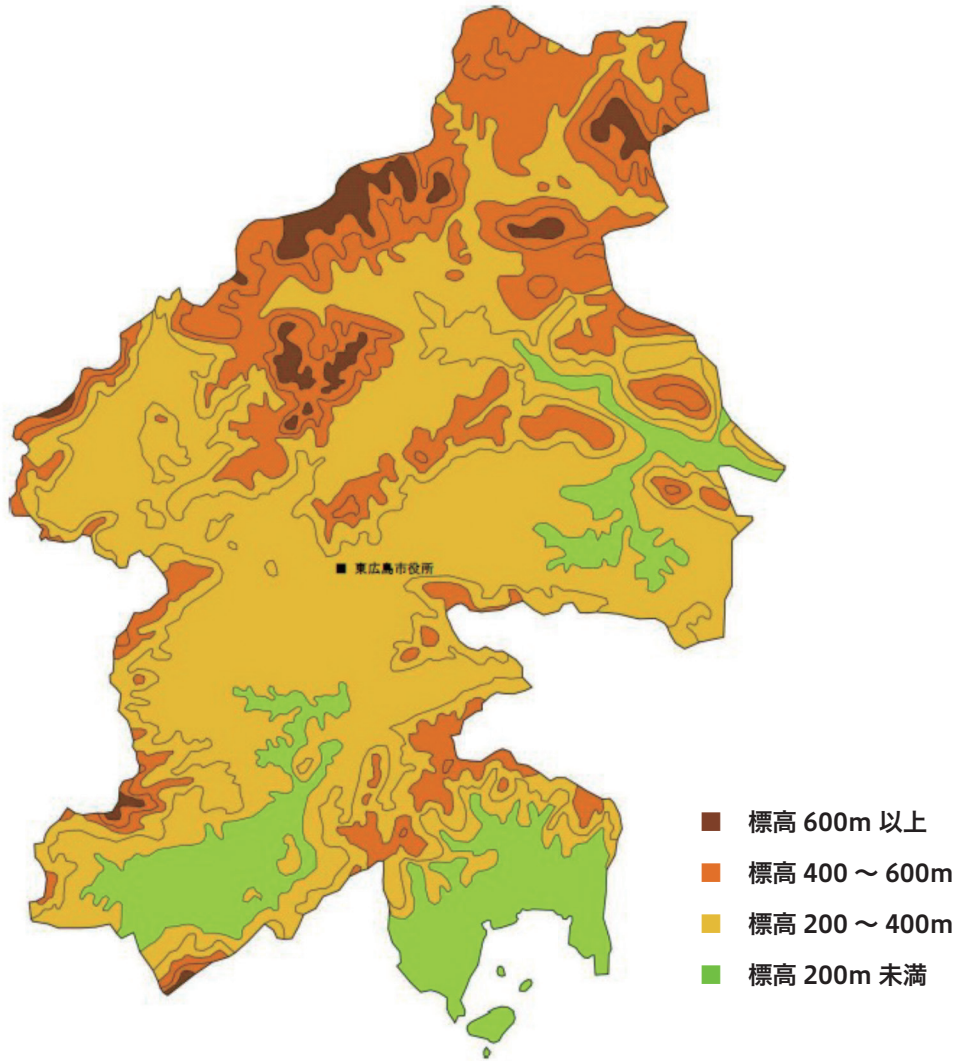


資料：第五次東広島市総合計画

市街地近郊エリア	産学官民連携や他の産業との関わりなど、多様な担い手による森林活用と保全を推進するエリア
自然環境エリア	豊かな自然を活かした林業振興と森林活用、都市部との交流による賑わい創出に取り組むエリア
里海エリア	観光の視点での森林活用や里山-里海の循環に繋がる環境価値の創出に取り組むエリア

本市は山間部から沿岸部を含むため、標高差が大きく、北部は概ね中山間地域に属し、中央部から南部の黒瀬町にかけては西条盆地や志和盆地など、ある程度のまとまりを持った平坦地が広がっています。西条町から安芸津町にかけて、尾根を挟んで標高が次第に低くなり、瀬戸内海に面して小規模な平坦地が広がっているほか、大芝島などの島しょ部を有しています。

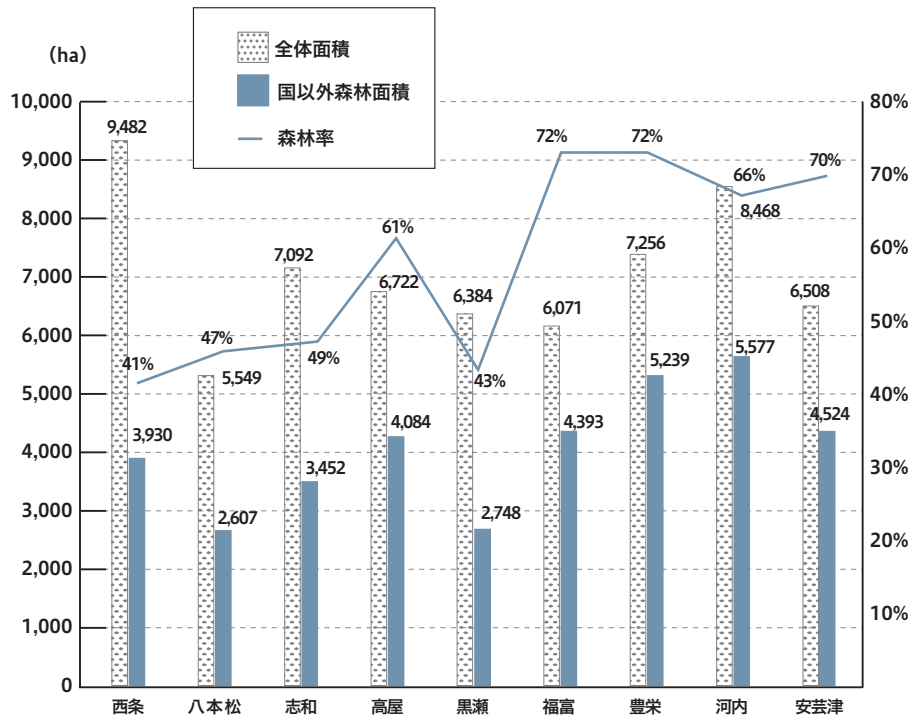
東広島市の地勢図



資料：東広島市歴史文化基本構想

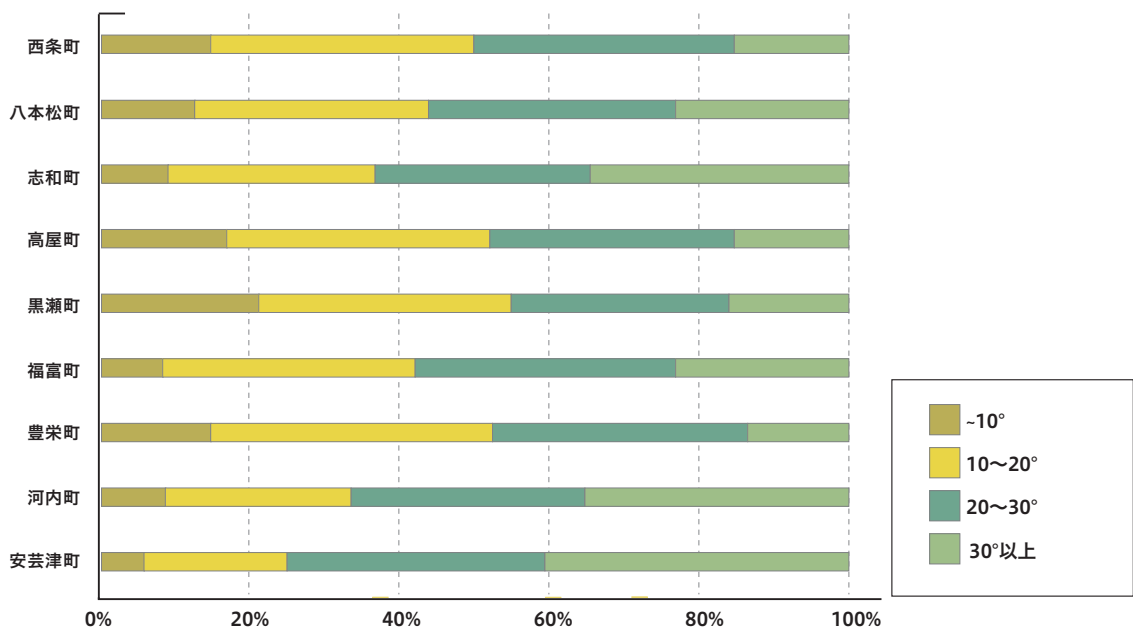
各地域における森林面積は都市部では市の平均よりも低く、北部3町及び安芸津町で平均より高い数字になりました。また、傾斜別標高区分より、安芸津町、河内町、志和町において急峻な地形が比較的多いことが分かります。

森林面積及び森林率(国有林を除く)



資料：広島県「令和3年度林務関係行政資料」ほか東広島市資料より作成

傾斜別標高別森林面積

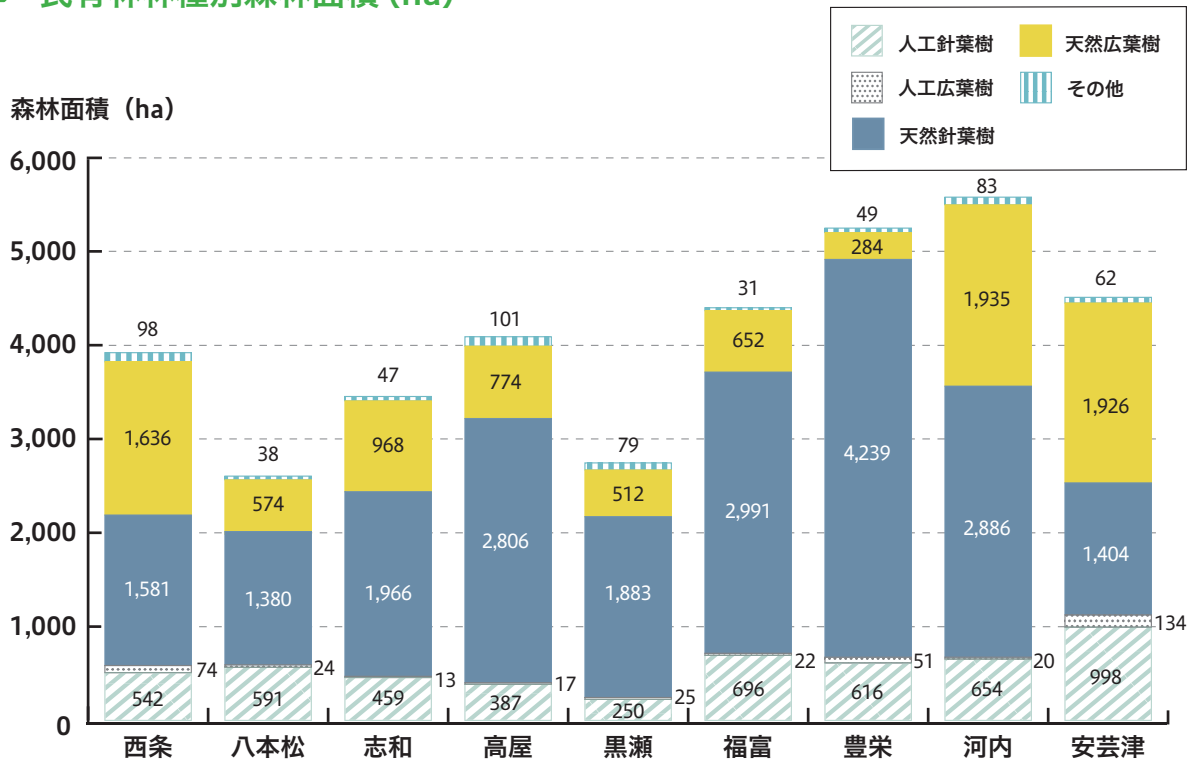


資料：森林簿より作成

また、林種別で見ると、森林簿上はどの地域も天然針葉樹（アカマツ）が多くなっていますが、実際は松枯れの影響により広葉樹化しているところがほとんどです。

人工針葉樹林は安芸津町が最も多く、続いて福富町・河内町・豊栄町の北部3町が続きます。

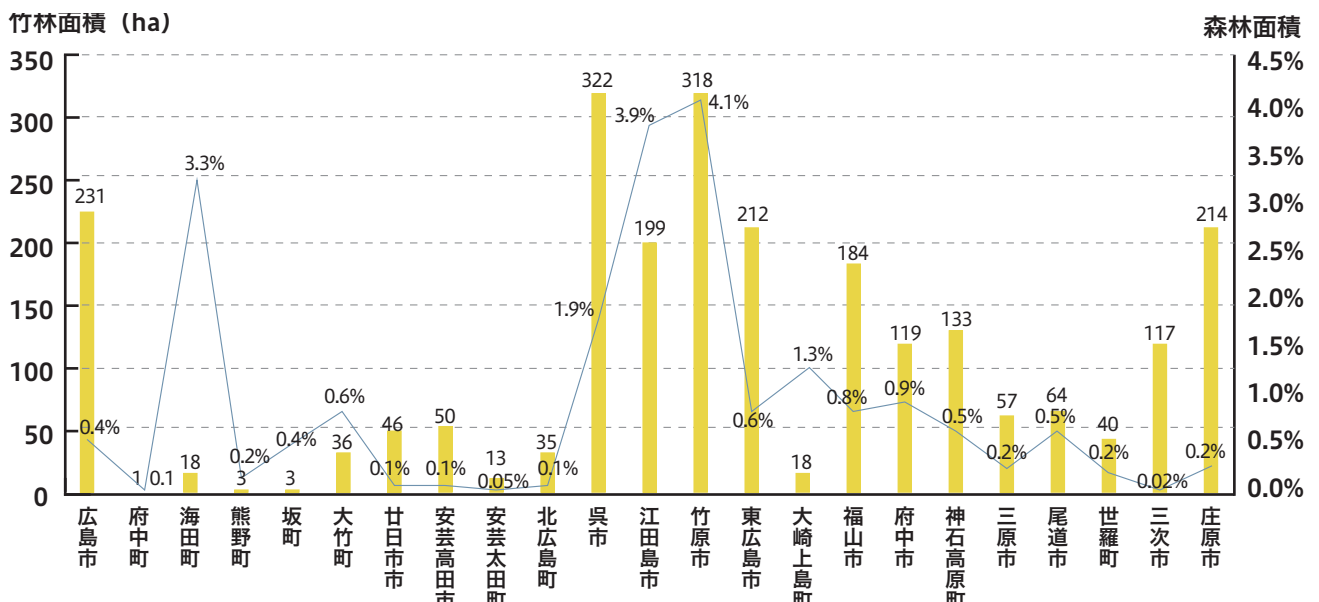
民有林林種別森林面積 (ha)



資料：広島県「令和3年度林務関係行政資料」より作成

他に、全域的な課題としては、活用されなくなった竹林が繁茂することで、耕作放棄地や植林地へ侵入し、鳥獣の隠れ家化することによる農業被害などが問題となっています。本市の竹林面積は県下でも5番目に広く、森林面積における割合でも9番目となっています。

広島県内における竹林面積及び森林面積における竹林面積の割合

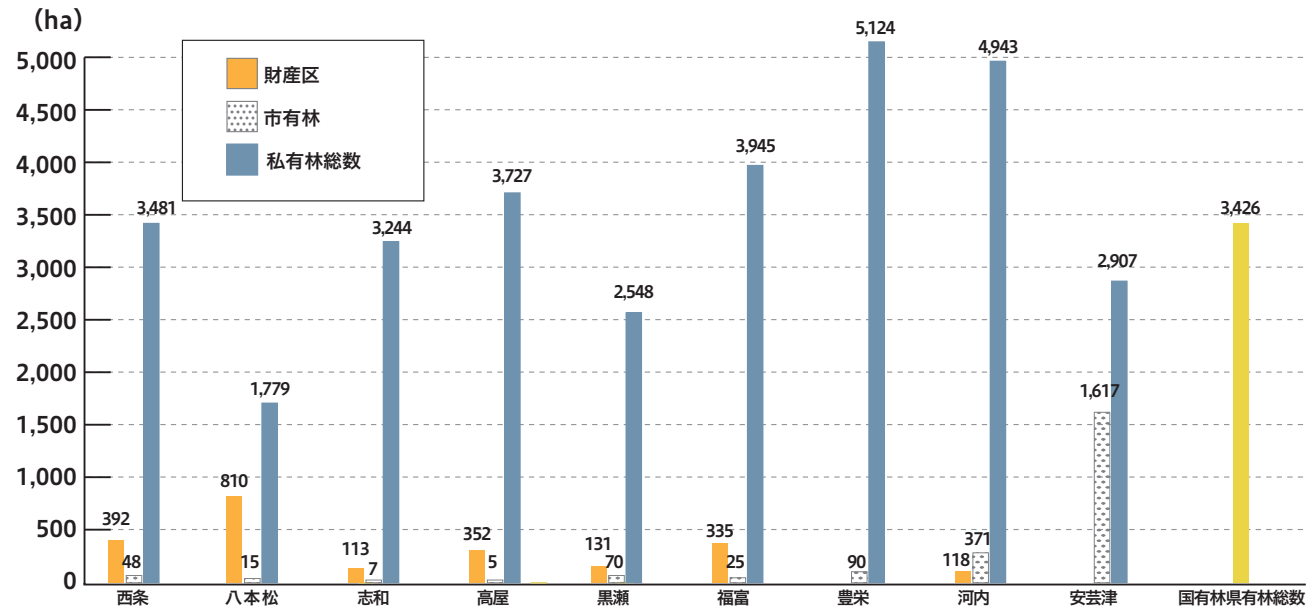


資料：広島県「令和3年度林務関係行政資料」より作成

所有形態別森林としては、豊栄町と安芸津町以外の八本松町や西条町などでは財産区有林が多く存在しています。

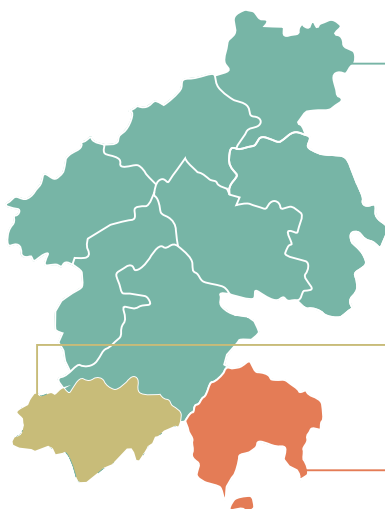
また、市有林は、合併前、旧安芸津町有林にて、ヒノキを植林し、保育や下刈りなどを行っていたことから、安芸津町に最も多く所在しています。

所有形態別森林面積 (財産区・市有林・私有林)



資料：広島県「令和3年度林務関係行政資料」より作成

本市では、3つの森林組合がそれぞれの所管エリアにおいて、地域の森づくりの中核的担い手として森林整備を行っています。本章では、市内の9つの地域ごとに森林を取り巻く現状を整理し、森林組合のエリア単位で課題や取り組み方針について協議を行い、森林と森づくりの現状に係る地域ごとの方向性を示しました。



賀茂地方森林組合（黒瀬町・安芸津町を除く）

- 北部は比較的人工林が多く、木材生産も行われている。
- 都市部は開発も多いが、地域や団体による森林整備や教育活動も盛ん。

黒瀬町森林組合

- 人工林は少なく、保安伐採などの森林整備が主であるが、生産森林組合による林業も行われている。

尾三地方森林組合（安芸津町）

- 急峻な地形が多く、防災観点からの森林整備の必要性が高い。
- 市有林が最も多い地域。
- 海に面しており、海洋環境保全などへの配慮が必要。

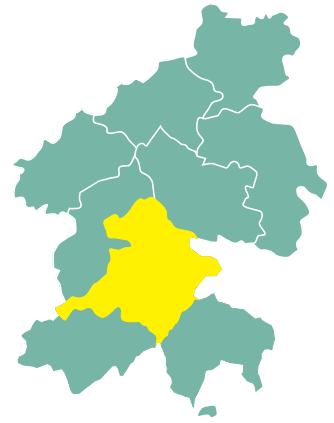
1

西条地域

市街地近郊エリア

地域の将来像

新たなテクノロジーによる次代の創造と
学術・研究・国際化を先導するまち



1 地域の概要

西条地域は、本市の中央部に位置し、西は八本松町、広島市安芸区、東は竹原市、北は高屋町、南は黒瀬町、安芸津町と接しています。

周囲は標高400～500mの丘陵山地に囲まれており、標高200～300mに広がる西条盆地の中央部に市街化区域が形成され、その周囲に近接して水田地帯が広がっています。また、JR山陽本線、山陽新幹線、山陽自動車道、東広島呉道路など陸上交通機能が充実しています。

市の中心で、酒蔵通りをはじめとした観光地のほか商業施設や文化施設が多く令和4（2022）年度には道の駅西条のん太の酒蔵が開業しました。広島大学や企業、研究機関で産学官民連携の取組も行われています。今後も市の成長を牽引する都市機能の強化とともに、自然と調和した定住環境の充実を図りながら、市の中心的機能を担っていく地域です。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は81,980人、世帯数は40,592世帯です。

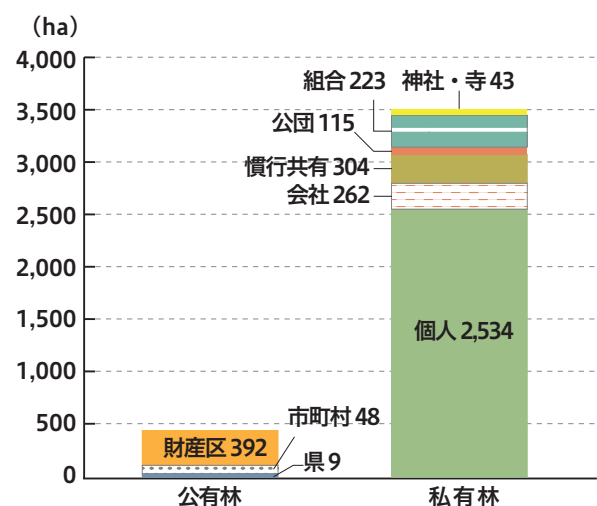
2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

市内で最も都市化が進んでいることから森林率は41%と市内で最も低いものの、一部の財産区などの旧共有林において人工林整備が行われているほか、一部の地域で住民による地域の森林の管理・保全が行われています。平成30年7月豪雨では、里山近くの住宅及び農地をはじめ、憩いの森公園、鏡山公園などが土砂や流木被害による大きな被害を受けました。

また、保全・活用の事例として、龍王山を拠点に、西条・山と水の環境機構の産学官民連携による森林整備活動が20年にわたり継続されています。脱炭素社会の実現と環境保全に向けたモデル的な取組の一つであり、企業のCSR活動の場ともなっています。

他に、森林資源の新しい活用の事例として、産学官民の連携により、ネズミサシの球果の活用と地域と連携した森林整備による産地形成を行っている事例があります。

所有形態別森林面積





西条・山と水の環境機構



田口生産森林組合



吉行生産森林組合

取組の方向性

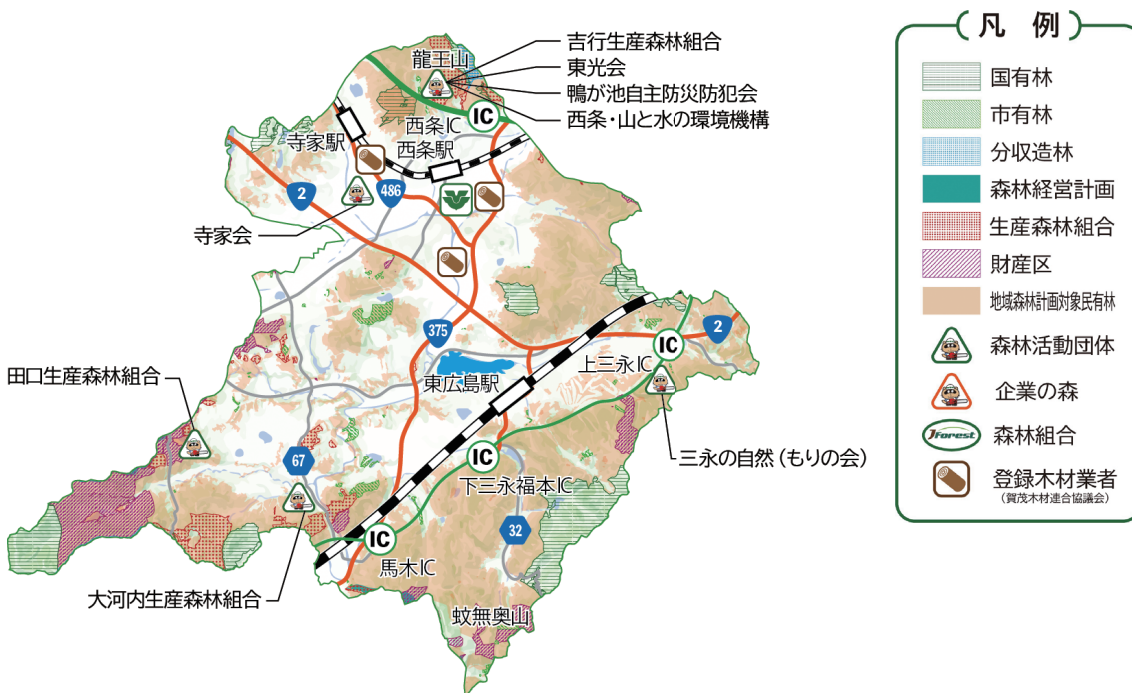
産学官民連携による新たな木づかいと多様な担い手による主体的な里山活用

防災の観点からも、地域単位での森林整備の継続は必要ですが、大学・研究機関などの集積と多様な担い手の存在という特性を活かし、新たな活用に取り組んでいくことで、動機付けにもつながる価値を醸成します。

3 地域特性を活かした取組

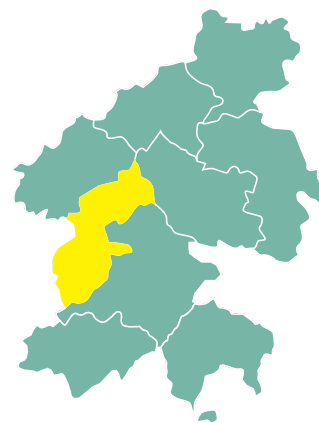
促進する取組	内容
産学官連携などによる新たなイノベーション創出	これまでの利用方法に留まらない多様な活用の可能性について、大学・研究機関などとの連携により取り組みます
公共建築物などへの広島県産材などの利活用をはじめとした木づかい	「道の駅西条のん太の酒蔵」屋内遊戯場など、市民の目に触れる場所での木づかいや森林環境教育などを推進し理解促進に取り組みます
多様な担い手による地域の森林整備・保全の継続と推進	山と水の環境機構をはじめとした森林ボランティアやCSRの一環として参加する企業など、多様な担い手による地域の森林整備・保全を推進します

4 地域図



地域の将来像

先端産業と田園風景の調和や都市との近接性を活かした
良好な居住環境が整ったまち



1 地域の概要

八本松地域は、本市の中西部に位置し、西は広島市、北は志和町、東は西条町、高屋町と隣接しています。北部及び西部は標高400～600mの丘陵山地に囲まれており、南部の西条盆地の西部に位置する吉川地区・原地区に平坦な水田地帯が広がっています。中央部にはJR山陽本線八本松駅と国道2号線、国道486号線沿いに市街地が形成されているほか、飯田地区、磯松地区などに工業団地が整備されており、吉川地区の工業団地と合わせ、高度な技術を持つ企業が集積しています。

また、吉川地区の水田地帯に広がる農村景観は、農林水産省の「美しい日本のむら景観百選」に選出されており、田園風景の美しい地域です。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は28,445人、世帯数は11,524世帯です。

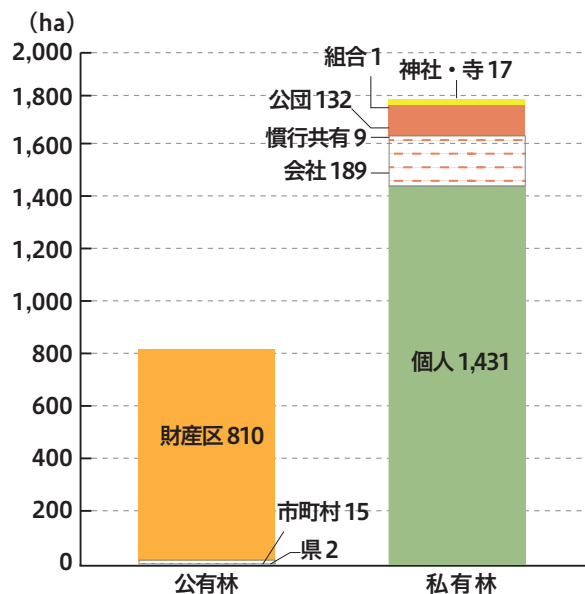
2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

八本松地域の森林率は47%です。財産区有林が市内で最も多く、人工林施業も行われています。

吉川地区では、企業によるCSR活動の一環として脱炭素化の実現に向けた森林の吸収作用の保全に資する森林整備などの活動を行う「企業の森」があります。また多様な担い手と活用の事例として、同地区や「エコミュージアムの杜」としての整備が行われている七つ池周辺では、地域の憩いの場づくりとしての森林整備や小学生などを対象とした森林環境教育が実施されているほか、刈又池周辺では、国有林と連携した池と森を活かし、憩いの里山づくりが行われています。

一方で、都市化の進む他の地域と同様に、地域コミュニティの希薄化などが原因で、担い手の確保や活動の継続に課題があり、地域に対する住民の意識醸成が必要となっています。

所有形態別森林面積





刈又池里山の会



セブンの森



シャープの森

取組の方向性

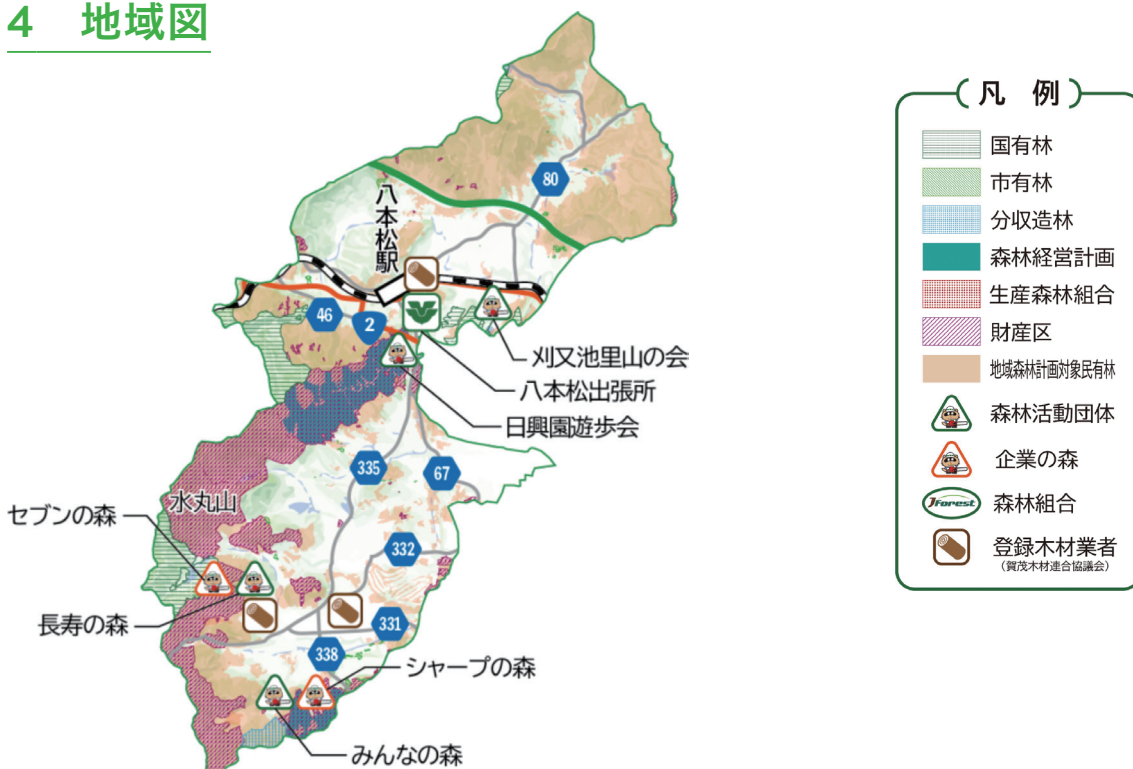
企業と地域との連携による森林活用

他の地域に先んじて財産区有林での地域の森活動が継続しており、地域単位での森林づくりや活用が進んでいることから、他の地域のモデルになるような活動を推進します。

3 地域特性を活かした取組

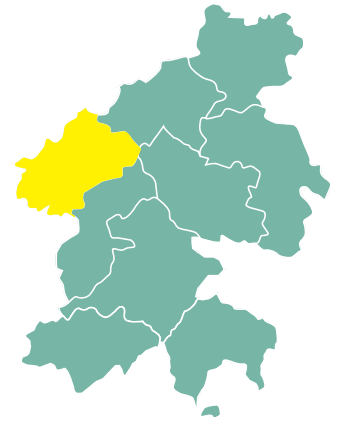
促進する取組	内容
地域・企業などと連携した森づくりの推進	企業の森をはじめとした森林の多面的機能をも高める活動の推進・継続に取り組みます
自然環境を活かした森林に親しむ機会の創出と意識醸成	多様な担い手による森林保全とレクリエーションや環境教育などの場としての活用を通じて、森に関わる機会の創出や意識醸成に取り組みます

4 地域図



地域の将来像

田園環境との調和やインターチェンジなどのアクセス性・
職住近接性を活かした仕事とともに新たな交流が生まれるまち



1 地域の概要

志和地域は、本市の北西部に位置し、東は福富町、高屋町、西は広島市安佐北区・安芸区、南は八本松町、北は安芸高田市と接しています。

周囲を標高500～700mの丘陵山地に囲まれ、太田川水系の関川流域に広がる標高200～300mの緩やかな河岸段丘を中心に集落が形成されています。また、志和堀地区は、茅葺屋根の民家が点在する伝統的な農村景観が保全されています。交通・産業面では、山陽自動車道志和ICが設置され、志和流通団地が造成されるなどの流通機能を有しています。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は6,578人、世帯数は2,504世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

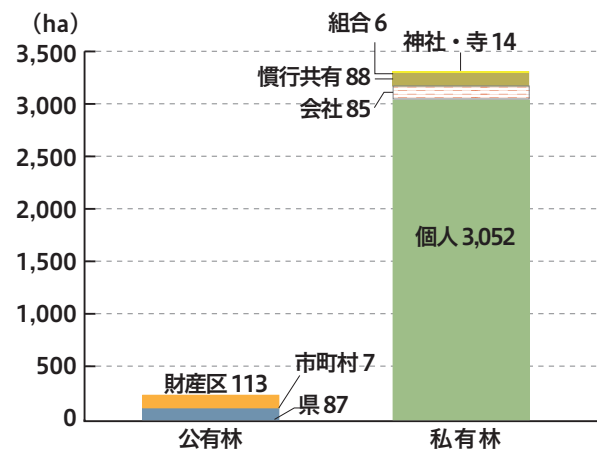
志和地域の森林率は約44%です。

他の地域と同様に、松枯れの影響により広葉樹化した森林が大半ですが、西条盆地の水源である、並滝寺池周辺の樹林地は、大半が国有林であることから、開発されることなく緑が維持されており、一部ではアカマツ林の広がる東広島市のかつての地域景観を見ることができます。

豊かな自然を活用し、大学とも連携しながら、自然体験学習を通じた環境教育を10年以上実施している「自然体験活動団体 里山学びの森（旧メセナSUN-CLUB）」や、森林・林業体験活動や子どもの遊び場としての里山活用に取り組む「森林ボランティア団体もりゆう」など、森林環境教育に取り組む団体が多く存在し、新しい森林活用が実践されています。自然に触れる、遊ばせる体験の場は市の他地域や、市外からの需要が高いところですが、担い手の育成やフィールドの確保に課題があります。

西志和地区など、里山の景観保全や、歴史を継承する取組を通じた地域活性化に取り組む団体もあり、活動を継続・発展させる取組が必要です。

所有形態別森林面積





自然体験活動団体里山学びの森



森林ボランティア団体もりゆう



ふるさとの里山を守る会

取組の方向性

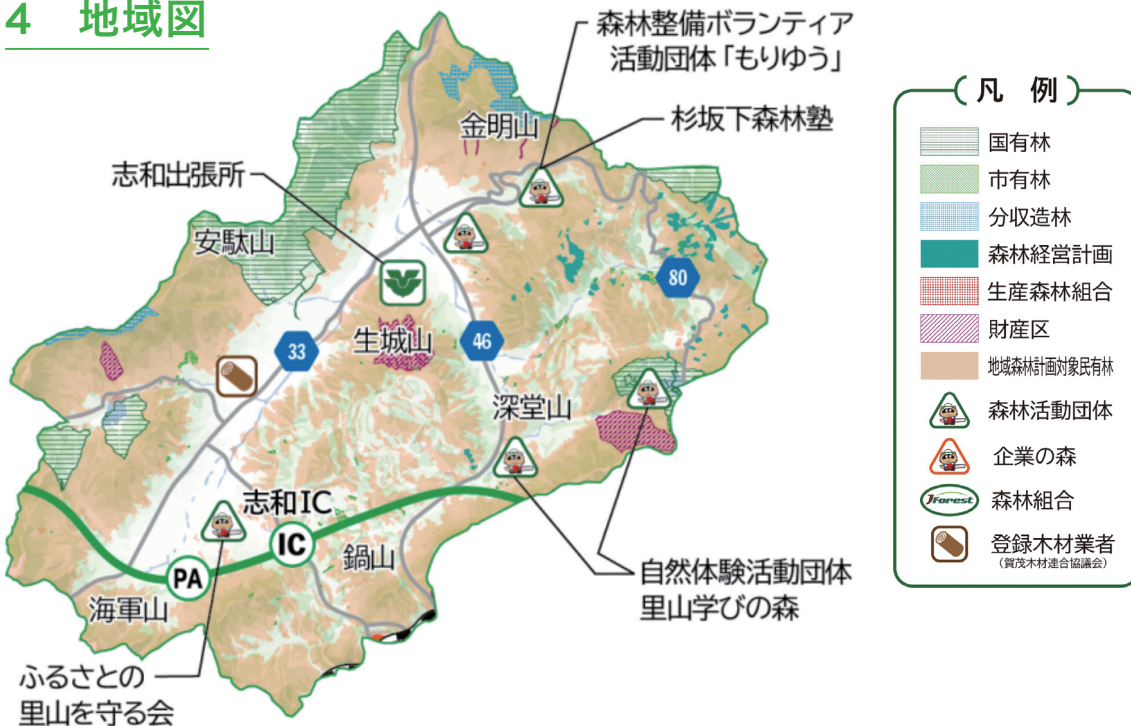
多様な担い手による豊かな自然を活かした森林環境教育や森林保全を通じた魅力発信

地域などによる自然環境を活かした空間利用や森林環境教育などが実践されており、森林に関わる機会の創出と意識醸成、魅力の発信に繋がる活動を推進します。また、製造企業の立地も多くあることから、企業のCSR活動による森林保全・活用を推進します。

3 地域特性を活かした取組

促進する取組	内容
豊かな自然環境を活用した森林サービス産業の推進	地域資源を活かし、森林資源を活用した地域振興に取り組み、魅力の発信に取り組みます
森林環境教育や木育を通じた森林に関わる機会の創出と意識醸成	自然環境や都市部との近接性などを活かし、将来の担い手育成や豊かな心の醸成に取り組みます

4 地域図



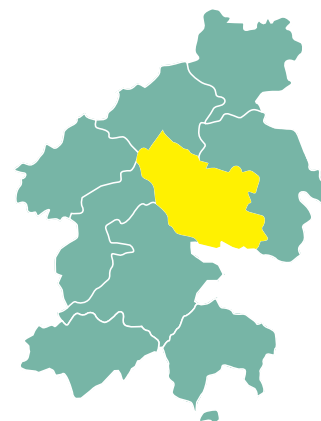
4

高屋地域

市街地近郊エリア

地域の将来像

広域交通や様々な教育機関が整う
豊かな田園と良好な居住環境を整えたまち



1 地域の概要

高屋地域は、本市の中東部に位置し、西は西条町・八本松町、志和町、東は河内町、北は福富町、南は竹原市と接しています。

平均海拔は200mで、周囲は標高400～600mの丘陵山地に囲まれ、緩やかな傾斜地、河川沿いに広がる平地部によって構成されています。

西高屋駅周辺には市街地が形成され、白市駅の北西部には住宅地や工業団地が集積されています。歴史的な町並みの残る白市地区には居住空間が分散的に形成されており、北部の造賀地区や貞重地区などには豊かな田園風景が広がっています。近畿大学工学部や県立・私立の中高一貫校など、教育機関の集積も進んでいるほか、東広島自動車道や山陽自動車道への直接乗り入れが可能になるなど、広域・高速交通へのアクセス機能が向上し、広島市など都市部のベッドタウンとしても機能している地域です。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は30,638人、世帯数は11,652世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

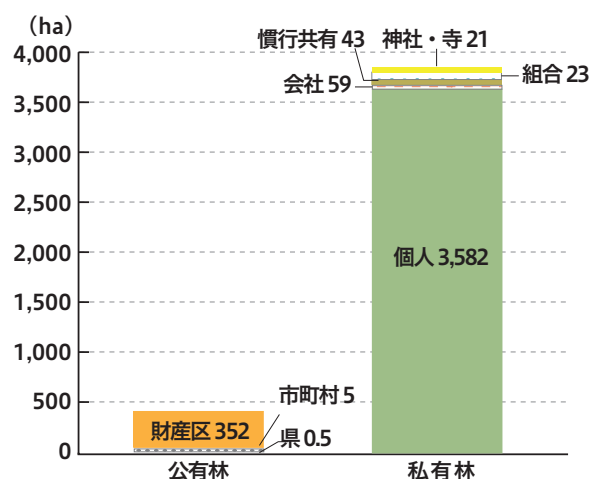
高屋地域の森林率は61%です。

人工林は多くありませんが、造賀地区では私有林を集約化した人工林施業が行われているほか、地域単位で森づくり事業などを活用し、自主的な森林整備を行う地域もあります。一方で松枯れ後、放置林化している森林も多く、適切な管理が求められます。

造賀地区は、次世代に残すべき自然として、「重要里地里山」に選定されていることから、生物多様性の観点からの配慮も求められます。

また、農地が多い一方で、山林に接した谷津地形の農地が多く、鳥獣害を抑えるためのバッファゾーン整備が必要となっています。

近畿大学工学部など、市内外からの学生も多い教育機関もあることから、今後、産学官民連携での森林に関わる新たな活用についての実証や、森林体験活動や整備に対する学生の参加など、地域連携活動の実践も期待できます。

 所有形態別森林面積




志村農振集落



重要里地里山（西条・造賀）



バッファゾーン整備

取組の方向性

地域・大学などと連携した里山保全・整備に繋がる森林資源の新しい活用と生物多様性の保全

豊かな自然環境を次世代に残すために、地域・大学などとの連携により、里山保全・整備、森林環境教育などに取り組むとともに新たな活用の可能性の検討を推進します。また、生物多様性保全に配慮した森林施業や農業と連携した有害鳥獣対策を推進します。

3 地域特性を活かした取組

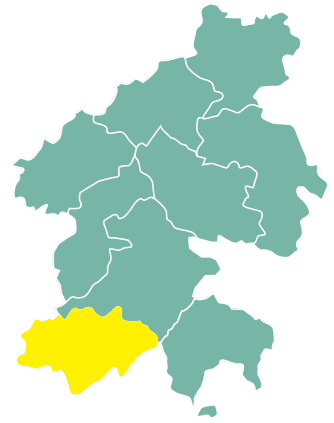
促進する取組	内容
地域・大学などと連携した主体的な里山活用と森林に関わる機会の創出	近畿大学工学部など、地域の学生が森林に関わる機会の提供と建築など木材利用の観点での新たな活用に関する検討などに取り組みます
生物多様性の保全に配慮した森林施業の実施	生物多様性の保全に配慮した森林施業の三つの柱に配慮した森林施業に取り組みます

4 地域図



地域の将来像

交通利便性や地域資源である大学の機能を活かした健康・福祉と交流のまち



1 地域の概要

黒瀬地域は、本市の南西部に位置し、西は安芸郡熊野町、南は呉市、北は西条町・広島市安芸区と接しています。

周囲は標高400～500mの丘陵山地に囲まれ、地域の中心を北東から南西に縦断する黒瀬川と国道375号沿いの盆地と支流域に集落が広がり、中黒瀬地区周辺には市街化区域が形成されています。また、東広島自動車など幹線道路の整備により呉市や広島都市圏へのアクセスが向上しました。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は23,851人、世帯数は10,048世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

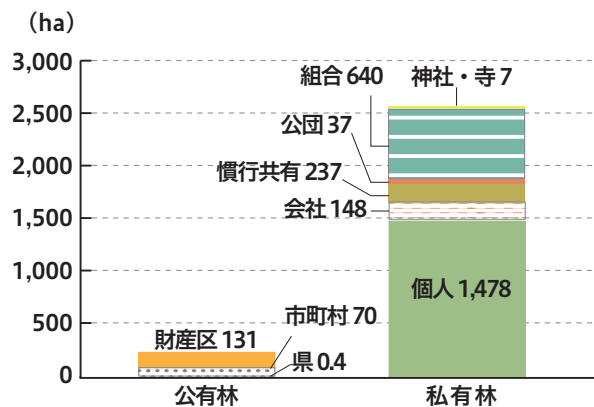
黒瀬地域の森林率は43%です。地域内の山林は、農用林として、ほぼ全域に人の影響が及んでいるため、奥山は存在せず、概ねが「里山」に相当します。

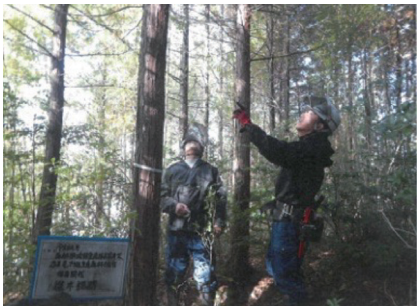
地域での森林整備活動や活用の事例は他の地域に比べ少なく、木材生産も盛んではありませんが、町内最高峰の小田山（標高719m）の一部をはじめ生産森林組合や財産区有林で人工林が植林されています。

循環的林業の継続のために、生産森林組合の活動の継続が必要です。また、放置林となり荒れている里山が見られる中、かつての農用林は、人が立ち入りやすい場所が多いことから、都市化に伴う、開発が進んでいます。一方で、地域での森林整備活動や活用の事例は現状として多くありませんが、里山資源マイスター研修の会場となるなど、体験のフィールドとしての森林活用もされています。様々な地域連携プログラムに取り組む広島国際大学が所在していることから、地域と連携した活動などに可能性があります。

また、近年の自然災害の激甚化により、防災観点での森林整備への関心が高まる一方、急激な都市化に伴うコミュニティの希薄化による地域への帰属意識の低下が懸念されます。山地災害防止の観点から、森林の機能や整備の必要性に対する意識醸成が必要です。

所有形態別森林面積





人工林施業地（乃美尾）



里山資源マスター養成講座（実践）



黒瀬町（黒瀬ダムから国近方面）

取組の方向性

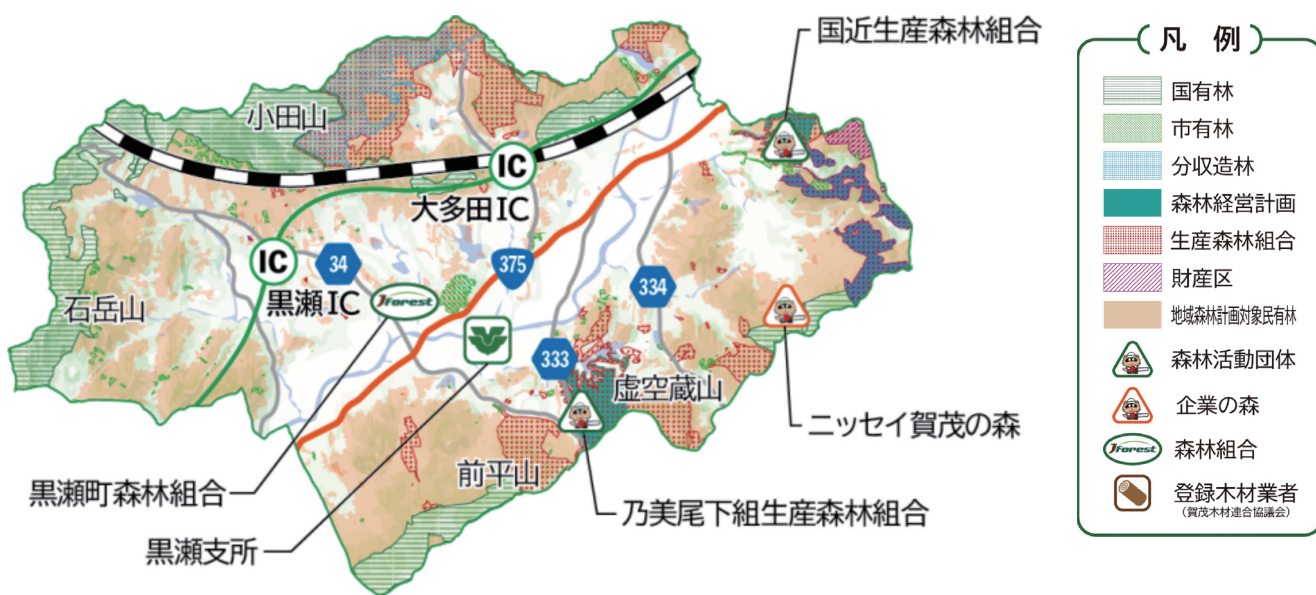
地域・大学などと連携した地域住民の健康・福祉と里山保全・整備に繋がる活用

森林で過ごすことや木づかいは、私たちの心身の健康に好影響を与えることが分かっています。本地域で行われている、広島国際大学と連携した市民の健康づくりに係る地域貢献事業との連携を検討しながら、里山保全・整備に繋がる活動を推進します。

3 地域特性を活かした取組

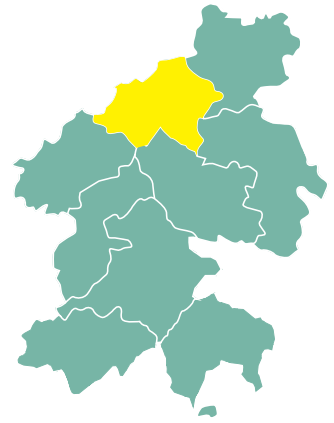
促進する取組	内容
地域・大学などと連携した主体的な里山活用と森林に関わる機会の創出	広島国際大学など、地域の学生が森林に関わる機会の提供と健康・福祉の観点での新たな活用の推進に取り組みます
生産森林組合による森林整備の継続と活用の推進	地域の森林整備・保全を継続するための仕組みづくりに取り組みます

4 地域図



地域の将来像

自然と人が共生する新たなライフスタイルに出会える
交流のまち



1 地域の概要

福富地域は、本市の北部に位置し、西は志和町、東は豊栄町と河内町、南は高屋町、北は安芸高田市と広島市安佐北区に接しています。

周囲を標高700m超の高峰に囲まれた盆地状の地形をなしており、北端に県南部の最高峰である922mの鷹ノ巣山、東端に733mの西原山、南端に788mの段原山があります。東部を南北に縦断する国道375号線沿に集落が形成され、福富ダムに近接する道の駅「道の駅湖畔の里福富」には、市内外から多くの利用者が来訪しています。人口減少や少子高齢化が進んでいますが、澄んだ空気や豊かな自然環境を活かし、関係人口や移住者による地域活性化に取り組む地域です。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は2,374人、世帯数は901世帯です。

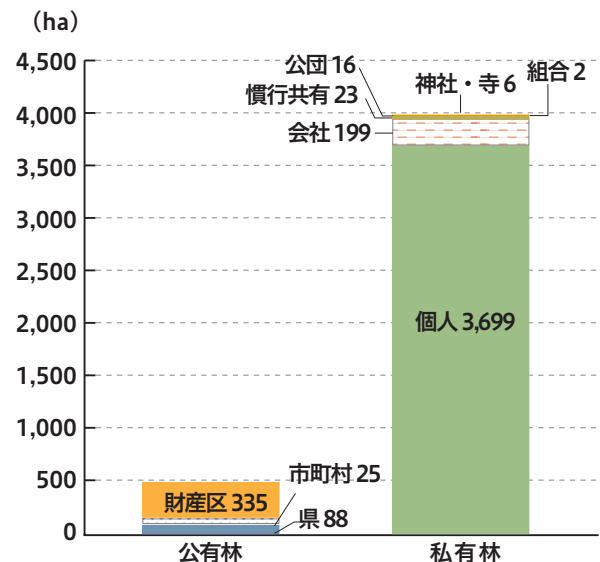
2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

福富地域の森林率は66%で、他の地域と同様、大半を占めていたアカマツ林が広葉樹に更新しています。林業は農家の兼業として営まれてきた歴史がありますが、比較的盛んに行われていた地域です。久芳地区、竹仁地区では明治時代からスギ・ヒノキ人工林の植林など森林資源の育成が行われており、現在も人工林施業が行われています。

また、かつての地域の特産として、農作物のほかに、木材、薪、木炭が出荷されていることや、ブナの原生林が息づく国有林鷹ノ巣山の中腹をはじめ、たたら製鉄を行っていた形跡があることから、薪炭林としての木材利用が盛んだったことが分かります。

森林の活用としては、「下永木材」が、自ら森林整備を行う傍ら、森の恵みとしての森林資源の活用や情報発信に取り組んでおり、森林の新しい価値の創造に取り組んでいます。「賀茂バイオマスセンター」にも近く、森林の小さな循環による木質バイオマス活用の可能性も高い地域です。また、「道の駅湖畔の里福富」など、市内外からの観光やレジャーでの訪問者も多いことから、森林空間の活用による関係人口の増加や地域活性化に繋がる取組も期待できます。

所有形態別森林面積





福富ダム



地域材を活用したおもちゃ



森の花屋 kicorico

取組の方向性

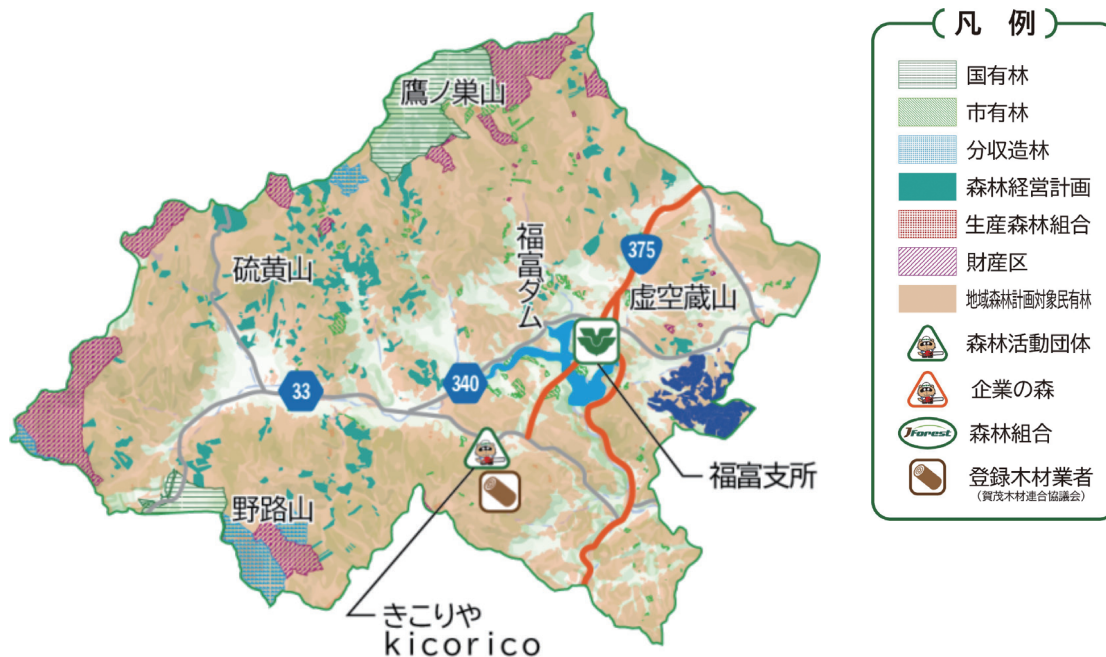
豊かな自然環境を活かし観光と連携した森林資源の保全と新しい生活価値に繋がる活用

周囲を山林に囲まれた自然豊かな立地や、道の駅、体験型農園・農場などの魅力的な交流拠点を活かした森林を含む地域森林資源の活用を推進します。また、福富地域で検討されている新しい生活価値の創造に関わる地域森林資源の「小さな循環」を推進します。

3 地域特性を活かした取組

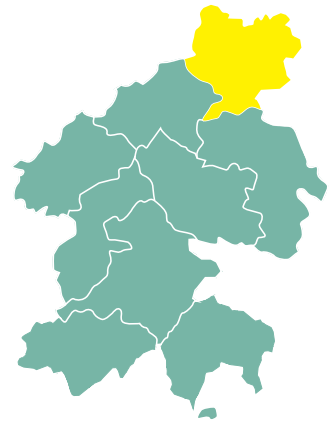
促進する取組	内容
地域森林資源を活用した新しい生活価値の創造に関わる小さな循環の推進	地域資源の総合的活用による木質バイオマスをはじめとした多様な活用に取り組みます
自然環境を活かした空間利用などの活用による森林に関わる機会の創出と意識醸成	多様な担い手による里山保全と、木育・森林環境教育などをはじめとした活用に取り組みます
森林における野生鳥獣対策の推進	農地における有害鳥獣対策との連携や国有林での捕獲事業などとの協力に取り組みます

4 地域図



地域の将来像

豊かな自然環境の中でゆとりある暮らしが楽しめる体験・
交流・定住のまち



1 地域の概要

豊栄地域は、中国山地の中心、本市の北東部に位置し、東は世羅町、三原市、西は福富町、安芸高田市、南は河内町、北は三次市と接しています。

周囲は標高600～700mの山地に囲まれ、山から流れ出た水が分かれていく源流地域の「分水嶺」があります。地域を南北に縦断する国道375号線沿いに集落が形成されており、古くから周辺市町を結ぶ幹線道路が通る交通の要衝として他の地域との交流により栄えてきた地域です。エヒメアヤマの群生地やオオサンショウウオの生息する清流など、豊かな自然が残る地域です。市内で最も人口減少や少子高齢化が進んでいますが、豊かな自然環境や希少生物など、地域資源を活かした移住定住の促進に取り組んでいます。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は3,232人、世帯数は1,321世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

豊栄地域の森林率は市内で最も高く、約72%です。林業はかつて農家の兼業であり、農業に次ぐ地域産業として行われていました。各所に製鉄遺跡が見られることから、特に薪炭林の活用が盛んに行われていました。

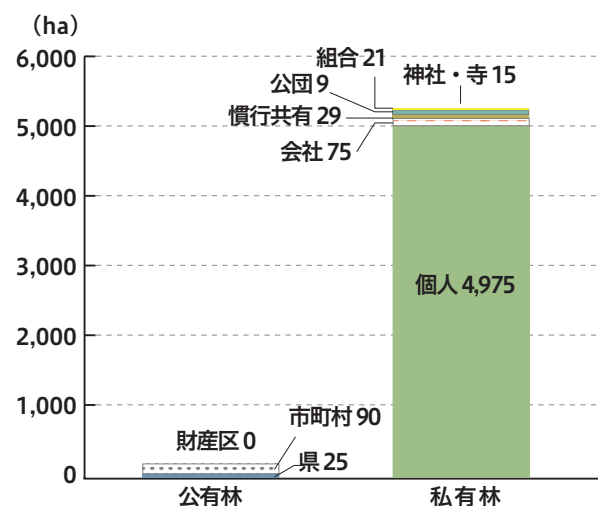
また、他の多様な樹種（※）についても出荷されていた記録があります。林業は他の地域と同じく現在では盛んではありませんが、今も私有林の一部で人工林施業が行われています。

また、オオサンショウウオが生息しており、希少な繁殖地であることから、次世代に残すべき自然として、「重要里地里山」に選定されています。

豊かな自然を後世に引き継ぐための活動としては他にもエヒメアヤマの保護活動などが行われていますが、メンバーの高齢化や世代交代など課題があります。

森林自然保育やりんご園の周辺の里山活用など、地域特性を活かした体験型の観光業が営まれています。森林の保全や活用にポテンシャルの大きい地域ですが、森林整備の観点では、地籍調査が終わっていない土地が多いことが大きな課題です。

※「きょうぎ帽子」用のこしあぶら、「下駄」用のホオノキ、樹皮（スギ、ヒノキ、アベマキ）など

 所有形態別森林面積




天神原地区のエヒメアヤメ



生活の森おうちえん
(森のようちえん)



小石川りんご園

取組の方向性

多様な担い手による主体的な里山活用と生物多様性環境の保全

希少生物、植物などが生息する豊かな自然を活かし、地域住民をはじめとした多様な担い手による新たな発想に基づく、地域森林資源の有効活用及び空間利用などを推進し、「小さな循環」を促進します。また、生物多様性保全に配慮した森林施業を推進します。

3 地域特性を活かした取組

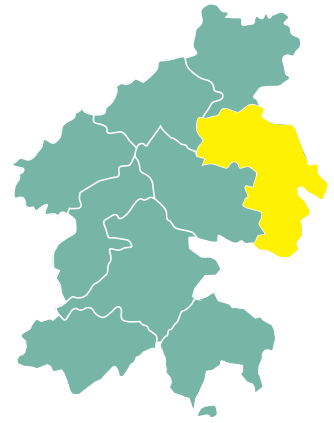
促進する取組	内容
地域材の活用による木づかいへの意識醸成と活用促進	地域資源の総合的活用による「小さな循環」に繋がる木質バイオマス利用の推進に取り組みます
自然環境を活かした空間利用による森林に関わる機会の創出と意識の醸成	多様な担い手による里山保全と、森の幼稚園や森林環境教育などをはじめとした活用に取り組みます
生物多様性の保全に配慮した森林施業の実施	生物多様性の保全に配慮した森林施業の三つの柱に配慮した森林施業に取り組みます
東広島市有害獣処理加工施設の活用した有害獣対策の推進による新たな価値の創出	有害獣対策として森林などで捕獲したシカ、イノシシのジビエ肉の地産地消とブランド化を推進します

4 地域図



地域の将来像

豊かな自然と空港や鉄道などの交通利便性を活かした
ゆとりと活力のあるまち



1 地域の概要

河内地域は、本市の東部に位置し、東は三原市、西は高屋町、福富町、南は竹原市、北は豊栄町と接しています。

周囲は標高500mの山地に囲まれ、北部から東部にかけては竜王山、日本ヶ峰、嶽ヶ城、中央部には^{たかむらやま}篁山があります。町内の山地に囲まれた盆地は起伏の緩やかな地形ですが、沼田川と支流により山地が浸食されてできた谷は、急斜面となっている箇所もあります。篁山と^{みやまきょう}深山峡は、三原市本郷町の用倉山と「竹林寺用倉山県立自然公園」に指定されており、深山峡の上流には棕梨ダム（白竜湖）があります。

地域の中心を流れる沼田川沿いと、北部の山間地に集落が点在し、JR河内駅周辺には市街地が形成されています。地域の中央をJR山陽本線が、南部では山陽自動車道が横断し、広島空港に近接するなど、陸空の交通機能が充実しています。人口減少や少子高齢化が進んでいますが、豊かな自然環境や景観を活かしながら、関係人口や移住者による地域活性化に取り組む地域です。

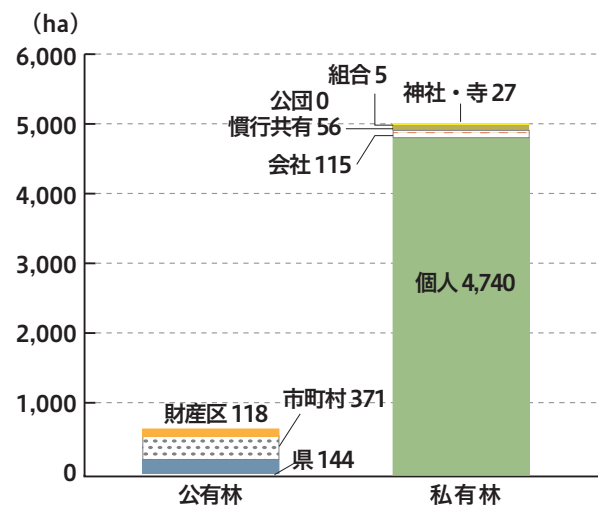
平成27（2015）年10月1日時点の人口は5,928人、世帯数は2,256世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

河内町の森林率は約66%です。多くは人の手が入った二次林ですが、深山峡などでは、自然林が一部残っています。人工林施業を行う森林は少ないものの、地域による森林整備が行われており「榎谷自然循環型林産物工房」など、地域の住民グループによる森林整備や炭づくりを行う団体があるほか、入野地域では「住民自治組織 篁の郷」が地域の憩いの場づくりとして財産区の森林を整備しています。「大道山竹炭工房」では、地域の小学校と連携し、「里山を活かしたたくましい子ども育成」を目指し、総合的な学習の時間における森林環境教育を10年以上行っています。

また、戸野地区には賀茂地方森林組合が整備した「賀茂バイオマスセンター」があり、地域材を活用した薪・チップ・ペレットの生産のほか、市民が自ら伐採した原木の買い取りを行う「木の駅事業」を行っています。

所有形態別森林面積





大道山竹炭工房



榎谷自然循環型林産物工房



深山峡

取組の方向性

地域と林業事業者などとの連携多様な担い手による主体的な里山活用と木質バイオマス資源の活用

里山を活かし、地域内外と連携した森林整備や教育の推進による地域活性化や地域森林資源の「小さな循環」を推進します。また、市の木質バイオマスの活用拠点である賀茂バイオマスセンターについて、豊かな自然と利便性の高い広域・高速交通などを活かし、活用を推進します。

3 地域特性を活かした取組

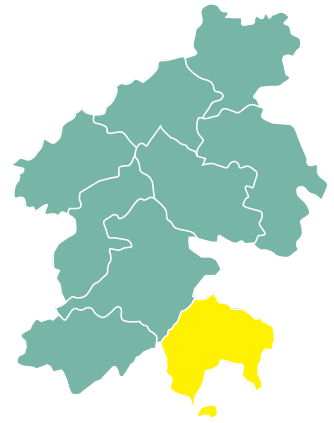
促進する取組	内容
地域が取り組む主体的な里山活用と・学校などと連携した森林に関わる機会の創出	多様な担い手による里山保全と地域と連携した森林環境教育などをはじめとした活用に取り組みます
賀茂バイオマスセンターを拠点とした地域資源の総合的活用による木質バイオマス利用の推進	地域資源の総合的活用による「小さな循環」に繋がる木質バイオマス利用の推進に取り組みます

4 地域図



地域の将来像

瀬戸内海に臨む温暖な気候と
豊かな自然環境を活かした共に支えあう共生のまち



1 地域の概要

安芸津地域は、本市の南部ほぼ中央に位置し、西は呉市、東は竹原市、南は瀬戸内海を挟み大崎上島町と接し、北は西条町と接しています。

地域の北部は標高300～500mの山地が形成され、南部は三津湾を望む丘陵地となっており、JR呉線と国道185号線沿いに市街地が形成されています。また、大芝島をはじめ7つの島々が、瀬戸内海に面した島しょ部の景観を形成しており、平地部は少ないものの、海・島・丘・山など地形の変化に富み、多様な自然環境に恵まれています。人口減少や少子高齢化が進んではおりますが、瀬戸内の風光明媚な自然環境や海を活かし、関係人口や移住者による地域活性化に取り組む地域です。

平成27（2015）年10月1日時点の人口は9,881人、世帯数は4,049世帯です。

2 森林及び地域の森づくりに係る現状と課題

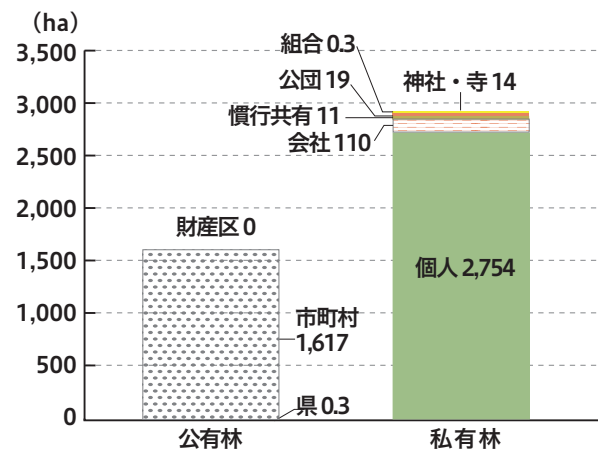
安芸津地域の森林率は69%です。他の地域と同様、松枯れ後、広葉樹化している森林が大半ですが、沿岸部には天然広葉樹が見られます。

三津湾に面し、沿岸部では漁業、内陸部では農業が主要産業です。かつては製塩業も行われており、森林は主に薪炭林として活用されていました。

地質は花崗岩が主な他の地域と異なり、流紋質岩石が全域に分布しています。スギ・ヒノキの生育に適した土壌ではなく、急峻な地形が多いことから、人工林施業や地域による自主的な森林整備はあまり行われていませんが、市有林面積は市内で最も多く、合併前の町有林では人工林施業が行われていました。また、豪雨災害での被害が大きく、防災の観点からの森林整備が求められています。

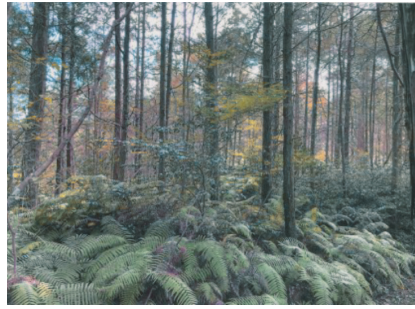
海を含む風光明媚な景観は市の他の地域にはない特徴であり、里山と里海とのつながりや、観光やレジャーにおける森林活用の可能性がある地域です。

所有形態別森林面積





三津湾の牡蠣筏



市有林（ヒノキ林）



安芸津町風早

取組の方向性

企業との連携による市有林をはじめとした森林資源と海洋観光資源の活用

山と海の両方を持つ風光明媚な景観や、特色ある農水産業と連携した森林の利活用を推進します。

また、市有林を活用し、将来的な地域材活用も目標に、森林整備により森林の多面的機能を向上するとともに、森林整備で生み出される環境価値を見える化し、周知・販売することで、市民や企業などの森林吸収源対策の促進や意識醸成を図ります。

3 地域特性を活かした取組

促進する取組	内容
森林整備を通じた環境価値の創出による森林吸収源対策の推進	市有林での森林整備を通じたJ-クレジット創出事業に取り組みます
里山と里海の近接性や景観を活用し、観光と連携した森林空間における森林サービス産業の推進	地域資源を活かし、森林資源を活用した地域振興に取り組み、魅力の発信に取り組みます
地域材の活用による木づかいへの意識醸成と活用促進	地域資源の総合的活用による木質バイオマス利用の推進に取り組みます

4 地域図

